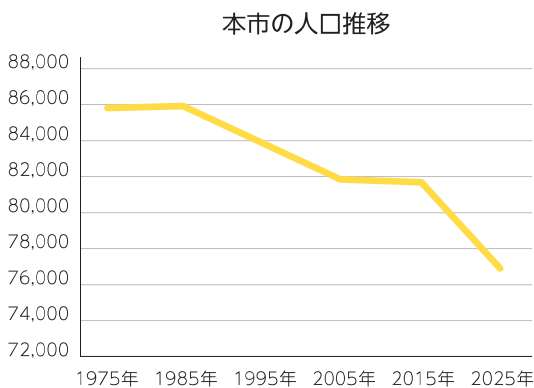


私が蒲郡を選んだ理由

全国からこのまちを選び、暮らす人がいます。外から移住してきた人たちは、このまちのどこに魅力を感じたのでしょうか。移住のきっかけやその魅力を聞きました。



「移住」「定住」が求められる背景



本市の人口は、1985年の約8万6千人をピークに、その後緩やかな減少を続け、2020年には8万人を切りました。特に近年は、出生数の減少と死亡数の増加による自然減が拡大しています。

人口が減少すると、医療や公共交通の縮小、労働力不足、地域コミュニティの機能低下など、現在の暮らしの維持にも影響が出るのが懸念されます。こうした中で重要になるのが「移住」と「定住」です。外から人を新たに呼び込むこと、そして今住んでいる人が住み続けたいと思えるまちづくりが求められています。

毎日が楽しくて 飽きることがない

東京都出身の松島さんは、大学で日本語教育に携わりながら、東京と蒲郡を行き来する二拠点生活を送っています。

蒲郡を訪れたきっかけは、東京での生活の中で気持ちが悪く落ち込み、環境を変えたいと思ったことでした。「とりあえず知らない場所に行ってみよう」と思い、見つけたのが蒲郡のゲストハウス。初めて訪れた夜、「竹島」と書かれたアーチをくぐったとき、「ここで人生が変わるかもしれない」と感じたといいます。最初は「何も無いな」と思ったものの、翌日、海を眺めながら過ごすうちに、「ここ、すごくいい場所かもしれない」と思ったそうです。その後、ゲストハウスのオーナーと意気投合。パートナーとなったことをきっかけに蒲郡に通うようになり、現在はゲストハウスの営業を手伝いながら、週の半分を蒲郡で過ごしています。



2022年 東京⇄蒲郡
松島 調さん

蒲郡での暮らしについて、「毎日が楽しくて飽きることがない」と話します。まちはコンパクトで、海や山が身近にあり、食べ物もおいしい。また、できることを選択肢が多く、日常そのものが豊かだと感じているといいます。「誰かがつくったものを消費するだけでなく、自分がプレイヤーになって能動的に参加できる場所があるのがおもしろい」と、地域のイベントや活動にも積極的に関わっています。その中で感じたのは、人と人の距離の近さでした。「初対面でも感情や思考を共有するような人間的な会話が自然とできるのがおもしろい、東京とは全然違う」と感じているそうです。



また、蒲郡の魅力について、「三河木綿は蒲郡が誇れる文化の1つ」と話します。元々繊維に興味があった松島さんは、手織場を訪れたことをきっかけに、その魅力に引き込まれていきました。「糸紡ぎや機織りをやってみたらおもしろくて、パートナーと通うようになりました」と話します。歴史ある産業でありながら、まだ十分に知られていないことに、もったいなさも感じているそうです。

蒲郡でのお気に入りの過ごし方は、海や山を感じながら1日を過ごすこと。「蒲郡は人と人の距離が近く、付き合いが表面的ではない。何かをやりたいと思えば、人が集まって実現できる。そこが1番の魅力です。」



2019年 名古屋>>蒲郡
尾崎 耕平さん

好きなことにまっすぐ 向き合える毎日が楽しい

茨城県出身の尾崎さんは、大学進学や就職を機に各地で暮らし、名古屋で農業関連の仕事に携わってきました。米農家向けの肥料営業として働く中で、後継者不足や耕作放棄地の問題に直面し、「自分で農業をやってみたい」という思いが強くなっていったそうです。

蒲郡を選んだきっかけは、妻の出身地であったこと。また、相談を重ねる中で、温暖な気候や日照時間の長さから、「ここで農業ができたらいいものができるだろうな」と思い、移住を決めました。「海に近い風景は、地元の茨城とよく似ていて、どこか安心感がありました」と話します。

実際に暮らしてみると、治安がよく、落ち着いた環境でリラックスして過ごせることも魅力に感じているそうです。現在はイチゴ農家として日々畑に向き合い、「イチゴ漬けの毎日が楽しい」と笑顔を見せます。

蒲郡に住んで驚いたことは、人との距離の近さ。イチゴづくりでうまくいかなかったときには、「失敗してもいいから、どんどん挑戦した方がいい」と声をかけられ、いつも周りの人が気にかけてくれていると言います。「茨城にいた頃は、近所に誰が住んでいるかも知らなかった。でもここでは顔が見える関係があつて、自然とつながりができる」と話す尾崎さん。

「ずっと住んでいる妻は、蒲郡には何も無いと言つんです。でも、何も無い。それがいいところでもあると思います」と笑います。



家族の時間を ゆったりと過ごせる

広島出身の川曲さんも大学進学や就職を機に各地で暮らし、そして夫の転勤でアメリカへ。帰国したのはコロナ禍の真っただ中で、そのような状況でも自然の中で子どもがのびのび生活できる場所を探していました。そんな中、ドライブで訪れたのが蒲郡でした。「アメリカでの生活のように家族の時間を十分に持つことができそう」と感じ、海と山に囲まれ、日常の中に小さな癒しがある蒲郡を選びました。現在は家族との時間を大切にしながら、シフォンケーキとハンドメイド作品のお店「Petit Joie」を営んでいます。



2022年 アメリカ>>蒲郡
川曲 寛子さん

暮らしの中で、近所の人が野菜を分けてくれたり、子どもと遊んでくれたりすることもあるそうで、「人が優しく、これまで出会った方はみんないい人ばかり」と言います。また、子どもが通う小学校では、塩田づくりなど地域の特色を生かした体験学習もあり、「こういう経験ができるのはいいな」と思っているそうです。

お気に入りの場所は、春日浦や西浦の海。子どもと海で遊んだり、海辺をドライブしたりと、日常の中で自然に触れる時間を大切にしています。また、海の見えるカフェでパソコンを開いて仕事をすることも。カフェで足湯に入りながらのんびり過ごす時間も好きなんだそう。

「蒲郡の派手ではないけれど、暮らしやすくて、ちょっとした非日常を感じられるところが私には気に入っています」と話します。



移住・定住を支える取り組み

移住・定住の促進に向けた取り組みを進めています。
※詳細はホームページをご覧ください

ラグナシア無料開放 ID 0329495

市民限定で入園料とアトラクション利用料が無料になります。
夏はプール、冬はイルミネーションも楽しめますので、家族みんなでお出かけください！

と き 7月4日(土)、11月27日(土)、3月14日(日)

持ち物 マイナンバーカードや運転免許証などの住所が確認できる本人確認証



結婚新生活支援補助金 ID 0327659

新婚世帯の住まいや引っ越しにかかる費用について、最大60万円を補助します。

申請期間 6月1日(日)～令和9年3月19日(土)

対 象 条件をすべて満たす方

- ・令和8年1月1日から申請日までに婚姻またはパートナーシップの宣誓した夫婦等
- ・婚姻日における年齢が39歳以下
- ・令和7年の所得の合算額が500万円未満
- ・申請日において住民票の住所が対象住宅と同じ ほか



取り組みは他にもまだまだあります！
移住促進サイト「いいじゃん蒲郡」でチェック



私たちが見慣れている景色も、視点を少し変えてみると、改めてその良さに気づくことがあります。今回の特集では、移住してきた人たちがこのまちの日常をいつもとは違う形で見せてくれました。

このまちで暮らす私たちにとって、この暮らしは当たり前前のものでしょうか。けれど、外から移住してきた人にとっては、その当たり前がこのまちを選ぶ理由でした。

まちを選ぶ理由は、人それぞれ。でも、その選択を支えるものが、このまちにはあります。日々の暮らしの中にある何気ないものが、このまちの魅力なのです。